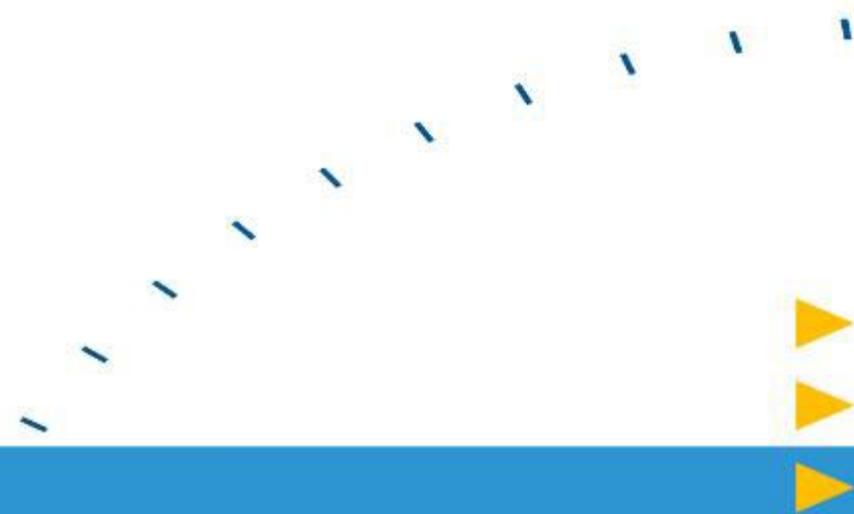


2022年12月19日

FW11.24



GFX-750 自動操舵設定 (感度調整 クラシック編)

GFX-750 自動操舵設定（感度調整 クラシック編）

・ライン取得モード

①クラシック

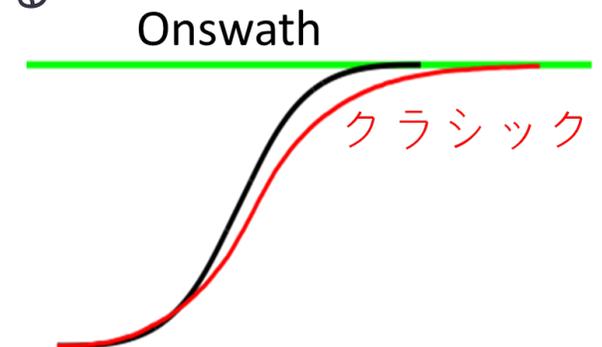
基本的なライン取得モードであり、トラクターのフロントシャフト中心にAB線へ向かっていく。

※AutoPilotの場合はこのモードを推奨。

②Onswath

作業機の先端がAB線へ向かっていくモード。作業中心の設定であるので、トラクターのフロントタイヤがAB線を大きくはみ出し、AB線へ向かっていく。

※EZ-Pilot Proの場合はこのモードのみ使用可。



GFX-750 自動操舵設定（感度調整 クラシック編）

・ステアリングPゲイン・車両追従性

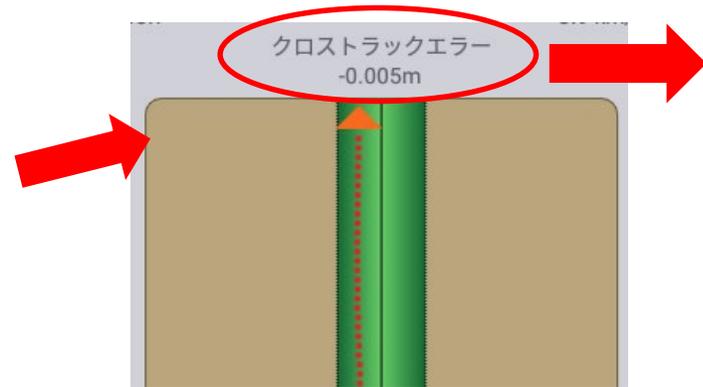
自動操舵システムによるハンドルの感度を調整します。



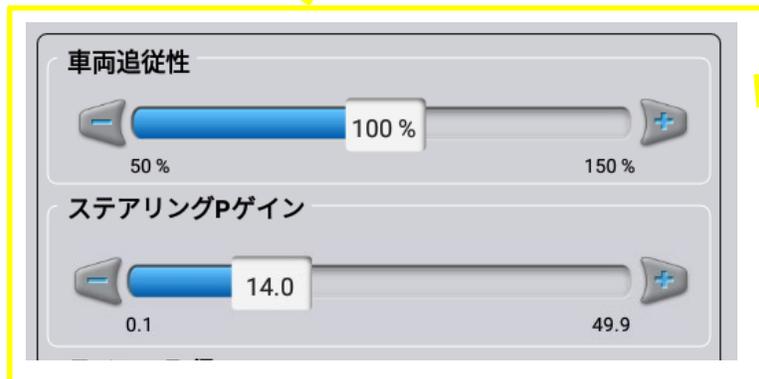
- 「Pゲイン」数値を変更するとハンドルの動作が変わる。
 - 数値を上げる→ハンドルが敏感に動く
 - 数値を下げる→ハンドルが鈍感に動く**※「Pゲイン」数値は12～19の間で設定。**
- 「車両追従性」は微調整で数値を変更。**※Pゲインを変更して後に変更。数値は「100」をスタートにし調整。**

GFX-750 自動操舵設定（感度調整 クラシック編）

- ・ステアリングPゲイン・車両追従性



- ・振れ幅が1~2cm以内に収まるよう調整。
- ・圃場環境・作業環境によって、突発的に振れ幅が大きくなることもある。



- ・Pゲインの数値は0.5ピッチで変更。
- ・車両追従性はPゲインを変更した場合、100%を基準に感度調整を行う。

GFX-750 自動操舵設定（感度調整 クラシック編）

- ・ステアリングPゲイン・車両追従性

ポイント

- ・ステアリングPゲイン・車両追従性の調整は実作業を行う圃場での実施が望ましい。
- ・クロストラックエラーを確認し、ステアリングPゲインの値を変更し、大まかに感度調整を行い、その後車両追従性で微調整を行う。
- ・乾いた固い土壌での実施がベスト。圃場が雪や泥などで通常時の状態と異なる場合での実施は、適正な値が出ない可能性がある。
またトラクターのフロントウエイトはフル搭載を推奨。

GFX-750 自動操舵設定（感度調整 クラシック編）

- ・ステアリングPゲイン・車両追従性

感度調整注意点

5cm以上の大きい蛇行

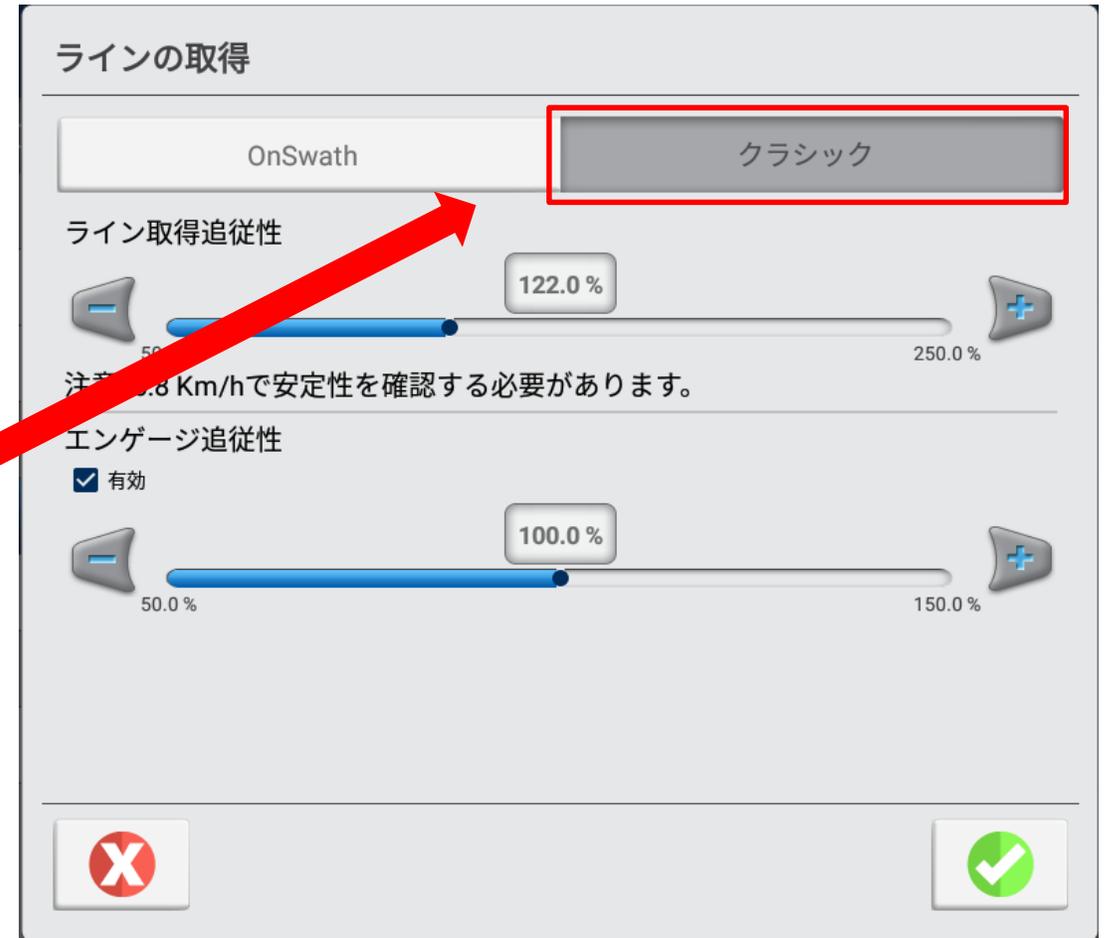
- ① Pゲインを高めに設定
- ② 車両追従性を高めに設定
- ③ プロファイルを正しく選択
- ④ 車両寸法を正しく記入
- ⑤ 後軸からのアンテナ取付位置を正しく入力
- ⑥ ライン取得追従性は作業速度に対して適正值に設定

1～2cmの細かい蛇行

- ① Pゲインを低くめに設定
- ② 車両追従性を低めに設定
- ③ プロファイルを正しく選択
- ④ 車両寸法を正しく記入
- ⑤ 後軸からのアンテナ取付位置を正しく入力
- ⑥ ライン取得追従性は作業速度に対して適正值に設定

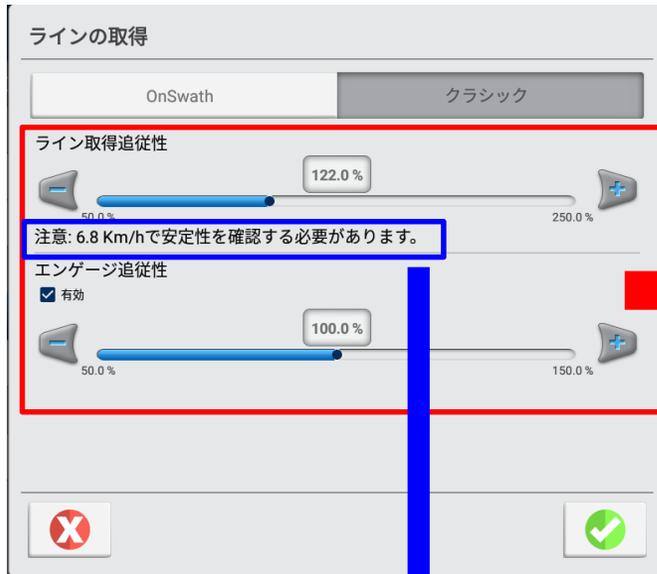
GFX-750 自動操舵設定（感度調整 クラシック編）

・ラインの取得



GFX-750 自動操舵設定（感度調整 クラシック編）

・ラインの取得



項目	説明
ライン取得追従性 [50-250%]	<p>選択しているガイダンスラインへどれだけ素早く入っていくか（向かっていくか）をコントロールします。50%～250%のレンジで設定できますが、値によって安定する速度が変化することを考慮して設定します。</p> <p>高い値： ・車両は素早くラインへ接近するが、ラインを超えてオーバーシュートする可能性あり ・作業速度も低くする必要あり</p> <p>低い値： ・車両は鈍くラインへ接近し、ラインを超えてオーバーシュートする可能性が少ない ・作業速度も高くする必要あり</p>
エンゲージ追従性 [%]	<p>選択しているガイダンスラインへの最初のターンの素早さをコントロールします。 ※有効にするかを選択できます</p> <p>高い値： ・最初のターンが素早くなります。</p> <p>低い値： ・最初のターンがなだらかになります。</p>

- ・実作業で出す最大作業速度から1~2Km/h多めに数値を設定。